

令和5年度 全国学力・学習状況調査【小学校】調査結果の概要

1 全国平均を100とした標準化得点（上段）と平均正答数（下段） （△全国より上位、▼全国より下位）

地域	阿 賀 野 市										令和3年度	令和4年度	令和5年度
	20年度	21年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度			
国語A：知識	▼99	▼98	▼98	△101	▼98	△101	▼99	△101	100	▼99	▼98	▼98	▼99
国語B：活用	▼98	▼97	▼98	▼99	100	▼98	▼99	▼99	▼99	▼99			
算数A：知識	▼99	▼98	▼98	△101	100	▼99	△101	100	100	▼97	▼98	▼97	▼99
算数B：活用	▼98	▼98	▼98	100	▼98	▼98	▼99	▼98	▼98	▼98			
理 科	*	*	100	*	*	▼99	*	*	▼99	*	*	▼98	*
国語A：知識	11.3/18	11.9/18	13.3/17	11.7/18	10.5/15	10.0/14	10.8/15	11.4/15	8.4/12	8.7/14	8.4/14	8.7/14	9.1/14
国語B：活用	5.6/12	4.4/10	5.5/11	4.8/10	5.6/10	5.5/9	5.6/10	5.0/9	4.3/8	4.3/8			
算数A：知識	13.5/19	13.4/18	13.3/19	15.1/19	13.2/17	11.9/16	12.7/16	11.7/15	8.8/14	8.4/14	10.6/16	9.1/16	9.5/16
算数B：活用	6.2/13	6.9/14	7.0/13	7.6/13	7.1/13	5.4/13	5.9/13	4.7/11	4.6/10	4.6/10			
理 科	*	*	14.5/24	*	*	13.9/24	*	*	9.3/16	*	*	10.1/17	*
調査対象	全学校	全学校	全学校	(*)全校	全学校	全学校	全学校	全学校	全学校	全学校	全学校	全学校	全学校

平成31年度からは、「知識」と「活用」という問題の区分がなくなり、一体的に調査問題が構成されています。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、調査は見送りとなりました。

全国学力・学習状況調査は、学力の一部分、学校における教育活動の一側面を示していることに過ぎないことに留意する必要があります。

2 標準化得点、平均正答数

標準化得点は、国語科及び算数科ともに全国を1ポイント下回っています。平均正答数をみると、国語科は全国平均を0.3問、算数科は全国平均を0.5問下回りました。標準化得点及び正答数ともに昨年度を上回りました。阿賀野市の児童は、国語科、算数科ともに、全国とはほぼ同程度の学力状況であるといえます。

3 児童質問紙調査に見られる課題と対応

(1) 児童の学習意識と学校の授業改善

① 学習に対する関心・意欲・態度

学力向上に向けて大事な指標となる「教科の勉強が好き」は、国語科は全国を0.7ポイント、算数科は全国を1.2ポイント上回りました。また、「授業内容はよく分かる」の設問については、国語科は全国を2.8ポイント、算数科は全国を1.4ポイント上回りました。国語科、算数科ともに、昨年度を上回っています。阿賀野市児童の教科に関する意識は概ね良好であるといえます。2教科とも肯定的評価が前年度を上回ったことが、標準化得点の上昇につながったと考えます。

② 授業改善の推進

各小学校は、真摯に授業改善に取り組んでいます。その結果は児童の意識に表われており、本年度の学力の上昇につながっています。しかし、標準化得点は100を下回っている状況です。特に、考えを書く、式や言葉で説明する等の書くことについては苦手意識をもっている様子が見られます。今後も「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現、及び思考力・判断力・表現力の育成に向け、一層の授業改善を進めていくことが大切であると考えます。併せて、基礎的・基本的内容を定着させるための繰り返し学習をする時間の確保が大切であると考えます。

(2) 家庭での過ごし方と学習習慣の改善

① 生活習慣

「朝食摂取」、「定時就寝・定時起床」など生活の基本となる習慣については、肯定的評価が全国とほぼ同じ割合であり良好な状況にあります。「定時就寝・定時起床」以上に大事なことは、十分な睡眠時間の確保です。睡眠時間の大切さについて、各校では保護者と連携し、継続的に指導していく必要があります。

② 学習習慣

平日の家庭学習時間で、「1時間以上」の児童は65.4%を占め、全国を約8.3ポイント上回りました。最多時間帯はこれまでと変わらず「1時間以上2時間未満」でした。しかし、「2時間以上」に限ると前年度より下がり13.3%で、全国を12.3ポイント下回っています。土曜日や日曜日の家庭学習時間についても同様の状況です。小学校では、学習習慣の定着を目的として、家庭学習時間については「学年×10分」を目標に指導してきました。その結果、学習習慣は定着しつつあると考えますが、「1時間未満（全くしないを含む）」の児童がまだ34.6%います。この児童の状況を改善することが必要です。個々の児童の実態に配慮しつつ、家庭学習時間を伸ばすことが大切であると考えます。そのためには家庭学習の質の向上が不可欠です。ドリル以外にも、授業内容との密接な関連を図った学習（その日の学習の振り返りや予習）などを課題として与え、家庭学習をすることの良さを実感させていくことが必要であると考えます。

令和5年度 全国学力・学習状況調査【中学校】調査結果の概要

1 全国平均を100とした標準化得点（上段）と平均正答数（下段） （△全国より上位、▼全国より下位）

地域 調査項目 年度	阿 賀 野 市												
	20年度	21年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
国語A：知識	▼98	▼98	▼97	▼96	▼99	▼97	100	▼98	▼97	▼99	▼98	▼98	▼95
国語B：活用	▼98	▼97	▼96	▼96	▼99	▼99	▼99	▼98	▼97	▼97			
数学A：知識	▼97	▼96	▼96	▼94	▼96	▼97	▼99	▼98	▼96	▼97	▼95	▼96	▼95
数学B：活用	▼97	▼97	▼95	▼94	▼96	▼97	▼99	▼98	▼96	▼96			
理 科	*	*	▼96	*	*	▼97	*	*	▼97	*	*	▼97	*
英 語										▼97	*	*	▼94
国語A：知識	24.0/34	24.1/33	22.4/32	22.2/32	25.2/32	23.7/32	25.2/33	23.6/32	22.7/32	7.1/10	8.6/14	9.0/14	8.8/15
国語B：活用	5.6/10	7.6/11	5.0/9	5.1/9	4.3/9	5.7/9	5.8/9	6.1/9	5.0/9	5.0/9			
数学A：知識	19.6/36	18.2/33	19.8/36	18.2/36	21.3/36	20.8/36	21.7/36	21.7/36	20.8/36	8.6/16	7.4/16	6.0/14	5.6/15
数学B：活用	6.5/15	7.3/15	5.8/15	4.5/16	7.7/15	5.2/15	6.3/15	6.6/15	5.2/14	5.2/14			
理 科	*	*	11.2/26	*	*	11.5/25	*	*	16.1/27	*	*	9.0/21	*
英 語										10.6/21	*	*	5.2/17
調査対象	全学校	全学校	(*)全学校	全学校	全学校	全学校	全学校	全学校	全学校	全学校	全学校	全学校	全学校

平成31年度からは、「知識」と「活用」という問題の区分がなくなり、一体的に調査問題が構成されています。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、調査は見送りとなりました。

全国学力・学習状況調査は、学力の一部分、学校における教育活動一側面を示していることに過ぎないことに留意する必要があります。

2 標準化得点、平均正答数

標準化得点は、国語科・数学科は全国を5ポイント、英語科は全国を6ポイント下回りました。また、平均正答数をみると、国語科は全国平均を1.7問、数学科は2.0問、英語科は2.5問下回りました。阿賀野市の生徒の学力は低い状況にあるといえます。阿賀野市生徒にとって、依然として基礎的・基本的学習内容の確実な習得とともに、思考力・判断力・表現力の育成が課題であるといえます。

3 生徒質問紙調査に見られる課題と対応

(1) 生徒の学習意識と学校の授業改善

① 学習に対する関心・意欲・態度

阿賀野市の生徒の教科に関する意識は、設問項目の多くで肯定的評価が全国を上回っております。学力向上に向けて重要な要素である「教科の勉強が好き」及び「授業が分かる」についてみると、国語科では「勉強が好き」が7.5ポイント、「授業が分かる」が3.6ポイント全国を上回りました。数学科では、「勉強が好き」は全国を7.5ポイント下回りましたが、「授業内容が分かる」は全国を2.2ポイント上回りました。英語科は、「勉強が好き」は全国を13.1ポイント、「授業が分かる」と答えた生徒の割合は全国を12.4ポイント下回りました。生徒の昨年度調査結果と比較すると、本年度の肯定的評価の割合は前年度より下がっています。このことが、標準化得点の下降につながっていると考えます。学力については、学習に臨む生徒の姿勢が大きく左右すると考えます。何のために勉強をするのか、これから生きる人として、また、将来の選択肢を多くもつ意味でもしっかり学習に取り組まなければならないことを、キャリア教育等の視点からも指導していく必要があると考えます。

② 授業改善の推進

各中学校は、令和3年度に始まった新しい学習指導要領の「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現に向けて授業改善に取り組んでいます。中学校の授業は、班活動を取り入れるなど、教師主導の授業から、生徒が主体となって活動する授業へと変わりつつあります。しかし、一人で課題にじっくり取り組むことや友達との対話の中で確実に理解する活動に課題があると考えます。また、生徒は、自分の考えを書く、言葉で説明することに苦手意識をもっている様子が見られます。これらの課題を解決するために、一層の授業改善が必要であると考えます。

(2) 家庭での過ごし方と学習習慣の改善

① 生活習慣

「朝食摂取」「定時就寝・起床」の規則正しさはほぼ全国と同じであり、良好な状態にあるといえます。就寝・起床については、「定時就寝・提示起床」以上に大事なことは、実質的な睡眠時間の確保です。睡眠時間の大切さについて、学校では保健教育での指導とともに、保護者と連携し継続的に指導していく必要があります。

② 学習習慣

学習習慣については、平日の家庭学習時間で、「1時間以上」家庭学習をしている生徒の割合は49.9%で全国を15.9ポイント、前年度を14.3ポイント下回りました。また、「1時間未満（全くしないを含む）」は約50%おり、前年度より14.5ポイント上昇しています。土曜日や日曜日の状況も変わりありません。学力向上には、授業改善とともに、家庭学習の充実も不可欠です。この状況を改善するためには、家庭学習の質（宿題を含む）と量の向上を図っていく必要があります。授業内容との密接な関連を図った学習（その日の学習の振り返りや予習）などを課題として与え、家庭学習をすることの良さを実感させていくことが必要であると考えます。